

青少年くらし

家庭版

発行
倉敷市教育委員会
編集
生涯学習課
☎ 426-3845

4月



「明るい家庭づくり」作文

家庭の役割、在り方など、日頃から家庭について考えていることをテーマにした作文です。令和六年度は、小・中学校から一、四九八名の応募がありました。市の優秀賞を受賞した作品を二か月にわたって紹介します。なお、優秀賞、優良賞受賞作品は、倉敷市のホームページに掲載しています。

● おそろからみていたかぞく

第二福田小学校 一年 江本 莉子

わたしには、うまれるまえのきおくがあります。おそろのうえて、どこのおうちにいつかなあときがしていました。そのとき、パパとママをみつけました。ふたりはとつてもわらつていて、なんだかたのしそうなおうちだなどおもしろい、ママのおなかにとんでいきました。

パパは、おもしろくてやさしいです。おしごとでつかれているのに、いつもだつこをして、あそんでくれます。

ママは、いつもはなをたくさんきいてくれて、みかたでいてくれます。

「りこちゃん、いちばんたいせつな、たからものなんだよ。」といってくれます。ママの

つくる、ハンバーグとカレーはとてもおいしいです。

そして、四にんめのかぞくは、三つしたのおとうとです。かわいくて、あまえんぼうなおとうと。いっぱいけんかもしちゃうけど、だけどいないときみしい、だいすきなおとうとです。

わたしには、いえのなかでしごとがあります。それは、おとうとによちえんのふくをきせたり、ごはんをたべさせたり、いっしょにおふろにはいることです。ママから「りこちゃん、ちいさいママだね。」といわれます。

おうちのとなりには、おじいちゃんとおばあちゃんもすんでいます。いつもいっしょにあそんでくれる、やさしいだいすきなふたりです。むしとりをさせてくれたり、は

たけでおやさいをとったり、いろいろなことをさせてくれます。

わたしは、とてもやさしいかぞくに生まれて、このおうちにおそろからとんできて、ほんとうによかったなとおもいます。わたしもおおきくなったら、かぞくにやさしくして、みんながえがおいっぱいです。そんなかぞくをつくりたいとおもいます。

● この夏、お姉ちゃんがいない！

老松小学校 五年 小野山 ゆり

今年の夏お姉ちゃんがいない！ 私は三姉妹の真ん中だ。生まれたときからとなりにはいつもお姉ちゃんがいた。いつの間にか妹もいた。お姉ちゃんはいしかり者だが、なぜか私には少しきびしい。いつも「早くしなさい」とか命令してくる。妹はもう小学二年生なのにいつまでも赤ちゃん気分だが、お姉ちゃんは妹には甘い。真ん中の私は時々、なんだかそんなをしている気分になる。私だってえらそうにしたいし、甘えたい。

お姉ちゃんは今年の夏休み、ニュージーランドにホームステイに行っている。だから今この家の「お姉ちゃん」は私だ！ でも、お姉ちゃんがいなくて大変だということに、私はすぐに気がついた。

まず、朝だれも起きしてくれない！ 私

は早起きが苦手だ。これまではいつもお姉ちゃんが「起きなさい！」と大声で起こしてくれていた。次に、勉強でわからないところがあっても、お姉ちゃんに教えてもらえない。だから宿題が全然進まない。そして、妹の遊び相手をしてあげないといけない。妹は家ではかいじゅうなので、私はよく泣かされる。このほかにもお母さんのお手伝いなども色々なことをお姉ちゃんの手伝いでしなくていけない。まさかお姉ちゃんがいなくて夏休みがこんなに大変なんなんて。

私はお姉ちゃんの家からいなくなって初めて、自分がこんなにもお姉ちゃんに助けられていたことに気づいた。お姉ちゃんがいなくて、私は早起きさえもできない。それに、お姉ちゃんが家にいるときにぎやかでみんなよく笑う。ご飯を食べるときもねるときも、お姉ちゃんがいると毎日楽しかった。お姉ちゃん早く帰ってきて、と思うことがふえた。

でも、これから大きくなって、本当にお姉ちゃんの家から出て暮らすようになることもあるかもしれない。だから、私はもっともしっかりしなさいと思った。まず、ちゃんと目覚まし時計で起きられるようになる。家のことも、自分から進んでお手伝いをし、できることをふやしたい。勉強も、自分で何回も復習して苦手をこくふくし、すぐ

琴浦西小学校
4年 さら
吉川 (令和6年度)

「いろんながらの ちょうちょ」 (版画)

本当にいるのう
羽のようにもを
区切ったほん
をたさんとが
するまをばり
まし。



人に聞くのではなく、もっと自分で考えよう。妹とすぐにけんかしないで、仲良くしよう。

私はこの夏これまでより少し「お姉ちゃん」になれた気がする。それは、お姉ちゃんがどれだけ大変なのかを知ったことで、お姉ちゃんをかついと思えたからだ。お姉ちゃんはいつも、私や妹のためにがんばってくれていた。少しめんどくさく思ふこともあったけれど、それも私のためを思ってくれていたのでと気づいた。お姉ちゃん、ありがとう。お姉ちゃんが日本に帰って

来たら、私が成長したところを見せたい。そして、お姉ちゃんに「がんばったね」とほめてもらいたい。お姉ちゃんにほめてもらうと、私はとてもうれしい。あこがれのお姉ちゃん、大好き！

● 家族との時間

庄中学校 三年 佐藤 碧海

私の家族は毎年、家族で父方の祖母のいる大分へ行きます。五、六年前までは大分へ行てゲームセンターや温泉など、色々な所へ行て思いっきり楽しんだことを今でも覚えてます。その時、祖母が小さく「あと何十回会えるんだろうね。」

とつぶやいたので、私は「めっちゃ会おう気だ。」と思いつつ、「まだ何回でも会えるでしょ」と思っていました。

私の家族は五人で、両親と三人兄弟です。父は会社員で母はパートで勤めています。長兄は大学四年生で北海道に居ます。次兄は高校三年生でサッカーをしています。そして末子の私は家で絵を描いています。私はこの家族の一員になれてとても嬉しです。なぜなら、母と父はいつも私の話を聞いてくれたり、長兄は家に居るとどこか連れて行ってくれたり、次兄と一緒に遊んでくれます。両親も兄もすごく優しく、四人と

の時間はとても楽しいです。

そんな私の家族は毎年、正月になると大分へそしてその帰りに岡山に住んでいる母方の祖父母の元へ行きます。しかし、私は大分へ行てあることに気づきました。昔はいつも色々な所へ行ていたはずなのに、最近祖母の家で動画を見たり、ゲームをしているだけということです。しかし、私が中学生になつてから兄は大学二年、高校一年と少しずつ小学生と違い、「めんどくさい」と思ふことがとても増えてきました。父に「どこか行く？」と聞かれても兄と私は「めんどくさい」「テレビ見たい」と断っていました。中学生になつてから平日は部活動や勉強、テストの頻度も増え、「休める日は休みたい」と思ふようになりました。

私は中学に入つてから家族と何かをするについて「恥ずかしい」と思ふようになりました。それまで家族でやっていた買い物なども友達に見られたくないし、友達と一緒に居る方が楽しいからです。たまに行く買い物も、せっかく来たのに「友達に見られたら」などと考え、「楽しい」よりも「恥ずかしい」の方が先に来てしまうことで家族と一緒に居ることが楽しくない自分が居ました。そんな時、母が私に「買い物とか、家族で出かけるのは嫌？」と聞いてきました。私は正直嫌いじゃないし、

かと言ってみんなで出かけたとも思わず、返答に困っていると、「周りの目なんて気にしても何も残らないよ。」と母が言いました。私は心底驚きました。なぜなら、ずっと母は何も知らないと思っていたからです。そして私は

「買い物も遊びも友達の方が楽しい。」と言つと、

「そういう考えもあるもんだよ。」

と否定せず、肯定してくれました。母はずっと思ひ出の数ではなく、その時その時の思ひ出を残しておきたいという母の想いを知ることができました。

今回、母が私に質問してくれたことで、母の想い、家族と一緒に居ることの楽しさを知り、自分の考えを改めることができました。長兄は大学院生、次兄は大学生、そして私は高校生と家族全員の間はどんどん減つていついるのかもしれない。だからこそ私は友達との時間を大切にすると共に、家族との時間も大切にしていきます。最初に話した祖母の「あと何十回会えるんだろうね。」には「ずっと一緒に居られるよ。」と昔とは違つ返答ができてつです。

(来月も作文を掲載します)